

バックミラーは現実ではない

確かに進んでいる

不確かなレールに乗って

きみまみれの血を

きみだらけのアザを

ひきずりながら

気づいたら 120km/s

景色は変わらない

もう行くしかない でもどうしよう

森に入った途端

初めて君に追い抜かされて

窓にベタリ

曇っているわたしの肉体

目隠ししたきみを乗せてどこまで走ること何時間

進んだ分だけ重さを増していく星は

まだ地図にない惑星の

小さな国の集落を壊してもなお

再び関節は隆起し

四肢は芽生え

進み続ける

進んでいる